（読者の声２）支那事変日本被害者論の拡散を！

1. 騙されている日本人

外務大臣が、中共へ行って支那事変を謝ったというが自国の歴史を知らない自殺行為である。忽ち侵略のブイを設置されてしまった。公務員の歴史の無知は有害だけでなく危険である。

日本近代史は、国民的に整理される前に、米軍の占領洗脳6年とその後のソ連の左翼洗脳を長く受けたので、政治家から庶民までぐちゃぐちゃになっている。それがとりあえず謝るという愚行だ。私はこれに備えて「黒幕はスターリン」「世界を騙した中共の正体」をハート出版から刊行しているので、参考にして欲しい。

そこで以下まとめて見よう。

（ａ）日米戦争は、戦前の米国が、民族自決を主張する日本を、異教（神道）への反発、支那満洲進出や白人のアジア植民地主義の邪魔、そして米国の黒人との提携を恐れて、滅ぼしたものである。

日本は自存自衛であった。しかし戦後米国はソ連に騙されたことがわかり反省し、方針を百八十度転換して現在の友好関係に至っている。ただし、国際政策の動機はあくまでも国益であることを忘れてはならない。

（ｂ）日本は、一度は敗戦したがその後日本の主張と行動は世界に拡がり、アジア、アフリカの諸民族が独立した。第一回ＡＡ会議では、加瀬俊一代表は新独立国の首脳から日本のお陰です、と感謝されたという。ということは、インパール作戦は結局勝利したということである。だから大東亜戦争で戦死した二百三十万英霊への感謝を忘れてはならないだろう。それが靖国神社崇敬である。

（ｃ）支那事変の三重構造

（１）発端：この戦争の外観は例えると、米国が9.11テロに反発してアフガンを占領したようなものである。支那は1912年の清朝滅亡以後中央政府がなく各地で軍閥が争っていた。1937年7月、国際ＰＫＯの日本軍部隊は、蒋介石軍から盧溝橋、廊坊、平安門、通州日本人大虐殺、8月の大山中尉虐殺そして上海租界と立て続けに挑発攻撃を受けた。そこで遂に邦人保護のため日本軍が大陸に出兵したため、講和のない泥沼の戦争に引きずり込まれてしまったのだ。

支那事変の日本軍死者は45万人に上る。実に勿体ないことであった。なぜ蒋介石は自分が損する無駄な戦争を仕掛けたのだろうか。

（２）黒幕：　この戦争は、1935年ソ連のスターリンが計画したもので、狙いは、将来の独ソ戦に備えて,東西挟撃を防ぐため、東部国境の反共勢力（日本、蒋介石）を無力化するためだった。だから、この戦争は、目的が日本軍の足止めだったから初めから講和は無かったのである。

この間、中共は1936年の西安事件で？介石を捕えて日本攻撃を受け入れさせ、後は高みの見物をきめこみ、それまでの国共内戦で失った兵力の補充に努めて、戦後の内戦再開を待っていたのである。

（３）戦後：1946年日本が撤退すると国共内戦が始まった。米国はトルーマンの大統領選挙のため支那から全米軍を撤退させたので、ソ連の援助を受けた中共が一挙に優勢になり1939年37年ぶりに支那を統一したのである。このため毛沢東は日本の社会党議員団に,日本軍のお陰で政権が取れたと感謝した（皮肉）のである。日本側は意味が分らなかった。無知であり完全に騙されていたのである。それは今でも続いている。

（4）現代の中共の被害者偽装の狙いは日本側にこのカラクリに気付かせないためである。泥棒が被害者の振りをするという伝統の戦術だ。支那の大地に眠る膨大な日本人にかけて我々は二度と騙されてはならないだろう。

支那事変のカラクリと現代中共の日本敵視の意味である。

（落合道夫）